

◆大楽院縁起

一 名称

山号を医王山、寺号を興福寺、院号を大楽院といい、一般には院号の大楽院の呼び名で親しまれている。

大医王仏である薬師如来を本尊としていることから医王山、それを信仰することによって福を興すから興福寺、そして人生を大いに樂しむということで大楽院（理趣経の経題から）となったのであろう。

大楽院は、JR常磐線竜田駅から東へ〇・六km、国道六号線へ一・五km、常磐自動車道ならばスマートインターへ二・〇km、太平洋へ一・五kmのところであり、緑が多く、春は草花、秋は木の実、鳥・虫の声絶えぬよい環境のなかにあります。

二 所属

平安時代の初期八〇六年に弘法大師（空海）がお伝えになった真言宗。中興祖興教大師の新義真言宗・派祖専誉僧正の教えによる豊山派に属し、総本山は奈良県桜井市の十一面觀世音菩薩と牡丹で有名な大和の長谷寺、大本山は東京都音羽の護国寺である。

三 開山

平安時代の末期一一八五年（文治元年）に、僧鏡宗によって開山された。

種々の資料から約三〇〇年ほど前に大火で焼失した。現在の建物（本堂）は、その後のもので、一九〇〇年頃に瓦屋根になり、一九八四（昭和五十九）年に弘法大師一一五〇年御遠忌及び開山八〇〇年記念事業として本堂の増修築が行われた。

四 建造物及び境内

- ① 本堂 一六二㎡
- ② 書院 二八二㎡
- ③ 護摩堂 八五㎡
- ④ 方丈 一〇八㎡
- ⑤ 境内地 一、九四〇㎡
- ⑥ 墓地 四、一三〇㎡
- ⑦ 觀音堂 九㎡
- ⑧ 立石不動尊堂 二十一㎡

五 觀音堂

。所在地 檜葉町大字井出字西原地内
。建立 年代、作者不詳

約三〇〇年ほど前の大火により竜田地区の家屋がほとんど焼失した際、觀音堂は床下の木の葉まで燃えたが、建物は無事だったという。白衣の童子が笹を手に屋根の上で消火にあたったからだという伝説があり、牛馬頭觀音、子安觀音としてはもちろん、火伏觀音としても深く信仰されている。

JR竜田駅より南方三〇〇m、徒歩三分の小高い丘の上にある。

六 立石不動尊堂

。所在地 檜葉町大字井出字立石地内
奈良時代の中期七六〇年頃、徳一大師によって開基された。建物彫刻がすばらしく、檜葉町文化財の指定を受けている。

常に付近を流れる滝の音が神秘さを加え、特に夏は蝉しぐれと滝の音のハーモニーがすばらしい。別名滝不動として近在の信仰を集めている。

JR竜田駅より西方六km、自動車で約十五分。